東奥日報2026年10月26日（月）付掲載

つなぐ 私たちの祭典 ④
――2年目を支える
青い海と森の音楽祭
10/31―11/8

青森山田高吹奏楽部

プロと共演 感謝を表現

「えぇぇぇぇ!!」。今年9月、青森市のリンクステーションホール青森で開かれる「0歳からのファミリーコンサート」にオーケストラメンバーとして参加することが決まった青森山田高校吹奏楽部の部員たちは驚きと喜びの歓声を上げた。11月7日、一流の音楽家とともに舞台に立つ3人は「共演で得た経験を少しでも後輩たちにつなぎたい」と張り切っている。

夢の共演に臨むのは、いずれも2年生で、スネアドラムとトライアングルを担当する寺澤長政（ちょうせい）さん、シンバルの長内龍斗さん、バスドラムの山田優翔（ゆうしょう）さん。コンサートではブラームスの「ハンガリー舞曲第5番」など2曲に参加する。



0歳からのファミリーコンサートに出演する青森山田高校吹奏楽部の（左から）長内さん、寺澤さん、山田さん

同部の部員は昨年の音楽祭にもオーケストラメンバーとして参加した。「プロの現場に参加させてもらうことで、音楽をする者にとって非常に大切な『間』を学び、大きく成長した」と顧問の髙橋太郎教諭は振り返る。今年も出演の打診を受けた髙橋教諭は、来年度の主力メンバーとなる打楽器担当3人を新たに送り出すことを決めた。

「緊張はもちろんあるがそれを超えた楽しみもある」と話すのは2年生副リーダーの寺澤さん。「プロと共演がかなったことへの感謝を音楽で表現したい」とスティックの基礎練習に余念がない。

長内さんは「すごく緊張する。プロの足を引っ張らないよう頑張りたい」と語り、シンバルの持ち方やたたく角度を意識した練習を心がけているという。山田さんは「勉強させてもらう気持ちで臨みたい」と、たたき方を熱心に研究する日々だ。

オーケストラ全体の音合わせは11月4日とコンサート当日の2日間のみの予定。髙橋教諭は「10年、20年とこつこつ練習して手に入るものを、プロの現場に飛び込めばたった一日で習得できる。一生の宝物になると思うので存分に楽しんで」とエールを送る。

（長谷川恵子）

無断での複製・転載・生成AI利用を禁じます